

目標達成計画

目標達成計画は、保護者の評価及び事業所結果をもとに関係職員で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標については優先順位を付けながら計画的に取り組んでいきます。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		開設時以来、放課後等デイサービスガイドラインの読み合わせを行っていない。 新しい職員への事業の理解促進も含めて、改めて確認する必要がある。	放課後等デイサービス担当職員が、放課後等デイサービスの意義を再認識して、支援全般の見直しの契機となる。	放課後等デイサービス担当職員にガイドラインを配布して、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月後に読み合わせ会を開催して、支援の見直しのきっかけ作りとする。	12ヶ月
2		個人情報の取扱について今一度周知する必要がある。	文面の情報だけではなく、口頭における情報についても注意する習慣付けができる。	グループ内の個人情報の基礎的な研修会受講後、放課後等デイサービス職員だけでミニ講座を開催して、特に児童の前で発してよい情報(職員の個人情報も含む)かどうか、共通認識を図る。	12ヶ月
3		児童に対する身体拘束や虐待防止について、今一度理解を深める必要がある。	児童に対する身体拘束と虐待について座学で学びを深める。また、止むを得ず身体拘束をする場合の組織的な取組みの手順を確立する。	児童に対する身体拘束と虐待についての学びを深めるため、職場内研修として知識を深める機会を設ける。また止むを得ず拘束をする場合の法人としての在り方をまとめて書面で明示する。	12ヶ月
4		児童がサービスを利用中に、万が一自然災害が発生した場合の対応方法を確立する必要がある。	万が一の事態が発生しても動揺せず、児童及び職員の安全を確保しながら、命を守る行動をとることができる。	自然災害時のマニュアルを見直して、保護者からご指摘をいただいていた、児童の引き渡しに関する手順を確立して明文化する。	12ヶ月
5		現在、保護者等向けの評価表は手渡しして、後日手渡しで回収しているが、このやり方では率直な意見が書きにくい。	保護者が率直な意見を表出しやすい環境を作る。	令和2年度の自己評価の際、保護者に返信用封筒を渡して無記名式での回答ができるようにやり方を工夫する。	次回評価時